

障害者福祉施設における農業支援体制

—精神・発達障害者の福祉施設における農業従事を対象に—

共生基盤学専攻 共生農業資源経済学講座 食料農業市場学 今 真由加

1. 問題意識

現在、社会福祉施設における農業の取り組みが拡大しつつある。障害者施設において、心身を癒す効果はもちろん、経済的側面からも農業の導入を始める例が増えている。しかし、両者を両立させつつ障害者が農業に従事することは容易ではない。それ故、その支援体制が鍵となると考えられるが、先行研究においては制度的支援や情報共有の課題が指摘されているものの、農業従事段階における実態および課題、特に精神・発達障害者における支援体制については未解明である。よって、福祉施設における農業支援体制について注目する必要がある。なお、本論文における支援体制とは、営農、障害者、施設・職員への支援を示す。

2. 課題

本論文での課題は、障害者福祉施設における農業支援体制、すなわち障害者福祉施設における精神・発達障害者の農業従事を可能とする仕組みについて、営農、障害者、施設・職員の側面から明らかにすることである。

3. 研究方法

本論文は以下の構成で論じる。1章では、精神・発達障害者の定義付けを行い、農業に従事する際の障害毎の特徴と福祉施設における農業導入の動向を整理する。第2章、第3章では、それぞれ精神障害者、発達障害者の福祉施設を対象として、営農、障害者、施設・職員への支援の仕組みとその問題点について明らかにする。終章では以上を総括し展望を述べる。

4. 結論

両者の分析の結果、精神障害者、発達障害者の農業従事においては、それぞれの障害特性に沿った支援が必要とされる点、障害者、営農の支援の2点が福祉施設における農業取り組みにおいて重要である点、施設・職員への支援においては、農作業に関わる技術・知識や障害者の特性の把握が可能な外部の諸機関との連携が鍵となる点の3点が明らかとなった。

今後、障害者の社会参加の手段として福祉施設における農業従事は有効と言えるが、農業一般と同様に経済面では厳しい環境に置かれており、支援体制の構築も容易ではない。その為、広くは福祉面と農業の制度的連携等の充実した社会的な支援の充実も急務である。